# 2022 年度：こども園自己評価の報告書　　高川こども園

| 評価項目 | 取り組み状況 |
|---|---|
| **教育・保育方針**<br>**教育及び保育の目標**<br>**全体計画・指導計画**<br>**こども園として特に配慮すべき事項**<br><br>・教育・保育課程<br>・教育環境の整備<br>・研究の取り組み　等 | ・「人と豊かに関わるための力を養う環境（人的・物的）・遊びとは」をテーマに、子ども一人ひとりの持っている困りごとに寄り添い、かかわり方法を学んでいくことで、子どもが主体的に活動し、自尊感情を持っていくにはどんな環境が必要なのかを考えていった。実技やワークを通して職員自身が実際に体感し、日々の教育保育に活用していった。<br>・公開保育を見て、その後の保育会議で保育教諭の保育や子ども達の姿の気付きなど意見を出し合い、子どもへのかかわり方や活動内容に対する課題や気づきを共有し保育実践に返していった。 |
| **健康支援** | ・コロナ禍でも保護者が安心して子どもと登園できるよう、手洗い指導、手指消毒、園内の消毒やおもちゃの消毒、園出入口の消毒マットの設置、幼児クラスのテーブルにシールドの設置等継続して行った。<br>・園児一人一人の健康状態を把握し、細やかに家庭と連携をとった。<br>・定期的に身体計測を行い、個々の成長を継続的に確認し、必要に応じて健康に過ごすための支援を行った。 |
| **安全管理** | ・毎月施設の安全点検を実施し、危険な個所については修理を行い、規模の大きなものについては修繕依頼して改善していった。<br>・避難訓練を火災・水害・地震・不審者とさまざまなパターンで行う。高川センターと合同の避難訓練や、高川小学校までの２次避難も計画した。消防車も来園し消火訓練も行った。災害時用食料もローリングストックとして、給食で食べ、非常時の給食を体験した。<br>・交通安全指導は園外保育の時や散歩に出た時、また絵本や紙芝居、映像教材を使って交通ルールなどを伝えていった。 |
| **食育の推進** | ・畑で収穫した野菜を調理して食べたり、給食献立の一部を子ども達がクッキングしたりすることで、食材や調理に関することに興味を持ち、食べる意欲に繋げた。「はてなボックス」を使い調理する前の食材に五感を使って食への興味をさらに持てるように工夫していった。<br>・給食献立の人気のあるレシピを家庭でも調理できるよう持ち帰れるようにした。<br>・新年年明けには、日本のおせち料理でよく食べられているもの、食べてみたいものを各家庭でシールを張り参加型の掲示にして興味･関心を持ってもらった。 |
| **子育て支援**<br><br>・入園している子どもの保護者<br>・地域の子育て家庭<br>・地域との連携　等 | ・コロナ禍の中で、密を避けるために迎え時や個人懇談を実施するなどして、子育ての悩みや不安などを聞き、保護者とともに子育てを考えていくように努めた。<br>・行事の持ち方、保護者の参加の仕方を見直し、密を避け、今できる形を考えながら行った。<br>・地域事業にも開放できる時は、園児が手遊びや体操を披露し園児の姿を知ってもらう機会を持った。遊び場や育児の相談のために来園される親子の姿が多数あり、相談を受けていった。 |

| | |
|---|---|
| **教育・保育内容**<br><br>・養護・健康・人間関係<br>・環境・言葉・表現 | ・公開保育を通して保育教諭や集団の中での子どもたちの良いかかわり、環境での良いところを観ていきながら意見交換していった。どのようなかかわり方が子どもの成長につながるのかを考えていった。<br>・プールは３年ぶりに入ることができ、入り方、内容など確認して実施した。 |
| **特別支援教育** | 子どもの目線に立ち、子どもの困り感を支援できるよう職員間で話し合いをもちながら、かかわりをもっていった。豊中支援学校や児童発達支援センターの巡回指導で、アドバイスをいただきながら教育・保育に取り込み実践していった。 |
| **職員の資質の向上** | アドバイザー研修では講師を招き、子どもの現状から子どもの困り感に寄り添い、必要なかかわり方を学んだ。環境を実際に見ていただき助言をもらい具体的な遊びを学ぶことができたので、すぐに実践につなげていくことができた。人権研修ではペアレントプログラムを受講した職員から学び「褒めて対応すること」「行動で考えること」から言葉かけの仕方やタイミングを知ることができた。子どもや職員の見方やかかわり方を考えていく機会となった。 |
| **幼保こ小中の連携** | ・就学先となる各小学校と連携を図り、園での子どもたちの様子を見に来ていただいて小学校就学につなげていく機会をもった。<br>・実際に小学校に行って小学生との交流ができ、自分の行く小学校、友達の行く小学校を知る機会ができ、入学への期待を持つことができた。 |
| **関係者評価の取り組み** | ・行事ごとに保護者の方から感想をいただき、取り組みの反省を行いながら次回への取り組みにつなげていく。また、保護者アンケートの結果も踏まえこの一年の教育・保育の評価・反省を総括会議で職員それぞれが自身のことと受け止め次年度へつなげていく機会にする。<br>・評議員会は開催することができ、子どもの様子を見ていただき地域の現状や課題など意見交流した。 |
| **その他** | いろいろな制限を設けながらの教育・保育の実践をしてきた。保護者の方にもご協力をいただきながら、違う形での行事や取り組みにもご理解をいただき、子どもたちの成長した姿を見ていただく機会が持てた。 |

**〇今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）**

| 課　　題 | 具体的な取り組み方法 |
|---|---|
| 子どもの困り感に寄り添い子ども理解を深めていく。 | 「困った子ども」ではなく、子どもの困り感に寄り添いかかわり方を考えていき、必要な環境や遊びを考えていく。「教育保育ガイドライン」を活用し、保育会議や公開保育で遊びや環境を振り返りながら教育保育を進めていく。 |
| 子どもの姿を保護者にわかりやすく伝えていく。 | 日頃から保護者の話をすることを心がけ、写真や映像を使いながら知らせ、コドモンで発信していく。 |

令和５年（2023 年）３月 31 日

豊中市立　高川こども園

園長名　津田　美穂